

命がけで守り、汗と血潮で受け継いできた山の富

保古山の沿革

天保年間 大火災により奥山焼き尽くす（焼失）
 明治13年 洞沢に植林 3人で2a
 明治29年 山林保護規約制定
 明治35年 奥山造林始まる
 明治40年 金原明善翁私財20円寄付
 明治45年 植栽計画が決議される
 大正7年 每年12町歩造林することになる
 昭和9年 第2期施業計画案樹立
 昭和20年 戦時特別伐採命令を受ける
 昭和24年 岐阜県第4回植樹祭
 昭和30年 東野開発振興会設立
 昭和47年 東野生産森林組合設立
 昭和48年 岐阜県東農林業実験林を設ける

この木とともに一世紀（原文のまま）

明治四十年金原明善翁米村以来奥山（現在の保古山）二十五ヘクタールの人造林が東野の心血をそそいで行われた。この頃自然林の中にも松、杉、檜、櫟、梅、楓、姫小松、栗の八種木の禁伐の制度が実施され自然の保護と森林資源の保護への礎がきずかれた。ここにあるヒノキ林はその代表的な林分で東野に住む二百五十人の父祖が三代にわたって銀のしずくを大地に流し天の恵みを限りなく生かし、はぐくみ、育てた東濃ヒノキの代表とも云うべきものである。これこそ林業人と自然が見事に調和して創り上げた一世紀の芸術である。

この先代からの偉徳を忘れず森林施業計画を大径木仕立ての方式でいま若い汗と血潮がうけついでいる。（金原林にあった看板・・・今はあります）

広報ひがしの

人口1650人
 (男)834人
 (女)816人
 641世帯
 (R4.7.1現在)

山論とは…
 ・山野の境界、利用をめぐる村落間の争論。江戸時代に頻発しました。

山の争奪戦！！

東野村と茄子川村との山論の結果、全十一ヶ所に杭を打ち、山境をはっきりさせました

関連記事 P 2, P 3

(絵地図の上側が東野) (蔵 坂本公民館)

東野生産森林組合

草刈り場の争奪戦奥山（保古山）論

昔は、今のように、化学肥料がありませんでした。百姓は山の草を刈って田畠の肥やしにしていました。しかし、江戸時代には境のはっきりした山が少なく、ほうぼうで村と村の山争いがありました。

今から三百七年前、正徳五年（一七一五）のことです。

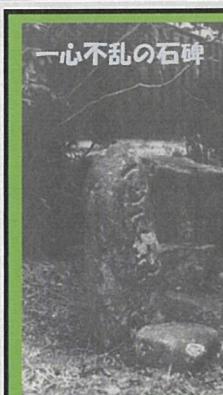
東野村の孫九郎という百姓が白坂と茄子川との境の「水の手」という所で芝刈りをしていました。そこへ、茄子川の百姓たちが山の所有権をめぐつて因縁をつけてきました。

数日後、茄子川の百姓たちが勝手に「水の手」で草刈りをしていると、いう知らせに、東野の百姓たちは怒って、大勢で、「水の手」へ行き、鎌を取り上げてしまいました。その後も、お互いに所有権を主張しあい、解決の糸口が見つからないようになってしまいました。

そのうち、茄子川の百姓たちが、岩村の殿様に所有権を主張し、何かしてほしいと言つてきました。東野も証拠を見せながら、訴えました。

安田善左衛門組頭

東野村の二十分の一、六十石を所有していました。安田氏は山論の際に、命を懸けて尽力しました。相手の茄子川村は、尾張藩の領土です。御三家の尾張を相手に勝利した努力は実に感謝すべきことです。その子の伝左衛門は、「一心不乱」と名乗り庵寺にて没しました。今でも、庵寺の中に位牌があります。子孫は絶えてしまつたそうです。



子川は尾張藩の領土で、東野は岩村藩の領土です。尾張と岩村では格が違います。岩村の殿様は、尾張の殿様に歯向かえるはずがありません。東野が正しいと思つても、なかなかそう認めることができなかつたのです。

それでもやつと岩村の殿様は、東野の言い分を認めました。

安田善左衛門がいろいろ申し上げているうちに、失礼なことを言つてしまつて、牢屋に入れられてしましました。最後は、現地調査をして境を決めるということで、役人が調査をし、採決が下りました。結果は東野の有利な裁定でした。

村の代表の努力で、東野の奥山がはっきりしたので、村にとっては忘れる限りない事件でした。

その日をお祝いして、城ヶ峰というところに石堂を建てて、お祭りをしたといわれています。（「私たちの郷土の昔と今」より）



や 山論の鎮の森や二尺坊 記念林金原翁や山の富 き

そもそも、茄子

川は尾張藩の領土で、東野は岩村藩の領土です。尾張と岩村

双方が評定所に呼び出され、地図のできないわけを聞かれましたが、東野の代表である安田善左衛門がいろいろ申し上げているうちに、失礼なことを言つてしまつて、牢屋に入れられてしましました。最後は、現地調査をして境を決めるということで、役人が調査をし、採決が下りました。結果は東野の有利な裁定でした。

山高きを持って尊しとせず、木あるをもって尊しとする金原明善

金原明善と水野定治



金原明善翁

う方です。
野定治とい
那出身の水
作者は、恵
三十年目になる節目に合わせ、一
九五三年「岐阜県と金原明善翁」
が復刻されたというものです。

記事の概要は、濃尾地震から百
三十余年になる節目に合わせ、一
九五三年「岐阜県と金原明善翁」
が復刻されたというものです。

金原明善翁は、ご存じの通り、
東野の山の植林にも大きな功績の
ある方です。

この記事を読み進むと、復興さ
れた本の原
作者は、恵
三十年目になる節目に合わせ、一
九五三年「岐阜県と金原明善翁」
が復刻されたというものです。



水野定治氏

令和三年十一月十九日の中日新
聞岐阜県版に金原明善に関する記
事が載りました。

水野氏は、岐阜師範学校を卒業後、小学校の教員になりますが、金原明善翁に出会い、三十歳で上京し、弟子になります。それは尊敬していた一宮金次郎の姿が金原翁と重なり、彼を支えることが自分の使命だと考えたからでした。彼がなくなつてからも、金原財團を守り、最後の伝記「金原明善」発刊に力を尽しました。

復刻本

「岐阜県と金原明善翁」

【「一八九一年十月二十八日早朝、旧根尾村を襲つた濃尾地震の犠牲者は七千人を超えた。山は崩れ落ち、荒れ果てた山林となつた。それから六年後の九七年。当時の湯本義憲知事が、濃尾平野を復興するため明善の手を借りようと依頼した。明善は現地調査の後、山林にスギやヒノキの植林を開始。当時は県内で苗木の生産が盛んではなかつたため、私財を投じて故郷・静岡の「金原林」の苗を無償で提供した。】

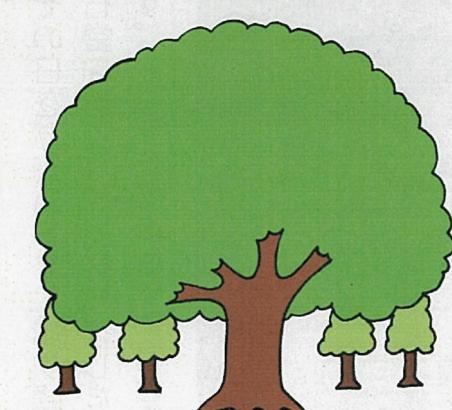
水野定治の著者名で五十六ページにわたるこの本は、この経緯が関係者の証言とともにまとめられています。

（以上、中日新聞記事より）



金原記念林(大正6年11月撮影)
～アーカイブス 東野～ より

ではその後植林が盛んになった。
金原翁の寄付金をもとに植林された場所を「金原記念林」と呼びました。



古尻の山林は金原翁の指導により植林されたということ
から「金原林」と呼びました。

東野の金原記念林

善翁は明治四十年と四十三年に来村し、植林の大しさを力説され、東野

大黒柱伐木イベント

岐阜県森林組合
連合会東濃共販所



東野のヒノキが大黒柱になりました

イベントの内容は、住宅の大黒柱の伐木です。

私たちの祖先が将来を考えて、植林してくれたヒノキが、住宅の大黒柱になるほど育ちました。あいにく材木相場が昔ほどよくありません。筋のよい立派な木が育つてているだけに残念です。

今回のイベントは、盛況であつた昔を思い出させてくれるもので、懐かしさもありました。

A photograph showing a dense forest of tall evergreen trees, likely pines or cedars, with their branches and needles visible against a bright sky. The perspective is looking upwards through the canopy.

当日は、浜松、京都、四日市から三人の施主さんが家族ずれで参加されました。新築する我が家の大黒柱になる木の伐木とあって、どのご家族も喜々としてみえました。

イベントは、最初に山の持ち主である東野生産森林組合の組合長の三宅一彰さんについてのお話から始まりました。この山についてのお話から始まりました。組合長さんからは、山の広さ、江戸時代からの山の歴史、金原明善翁の功績、植林の大切さなどの話がありました。子供連れの家族も見えましたので、ディズニー・リゾートなども例にあげ、分かりやすいお話をしました。特に、話を通して、この山の木は先祖から大切に守り育ててきたすばらしい木であることが強く伝わってきました。



ントの説明

続いて、岐阜
森林組合連合会
濃共販所の味藤
んから注意事項の



イベントの説明

多くの木が利用されず
に朽ちていく中で、大切
に育ててきた東野のヒノ
キが家の大黒柱になりま
す。願つてもない事だと
思ます。

最後に根元の数十センチを輪切りにし、記念として、その株を施主さんが持ち帰られました。

A person wearing an orange safety vest and hard hat, carrying a large log on their shoulder, walking through a forest.

お話しがあり、メー
カー（日本ハウス）
の一柳さんから簡単
なイベントの流れの
お話をへと続きまし
た。

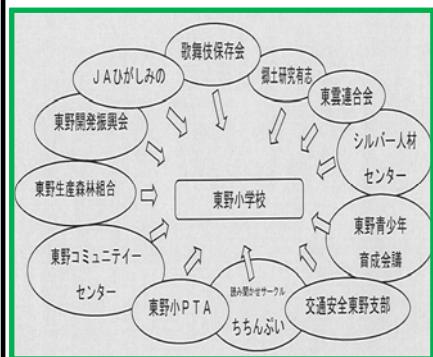


木の選択

この協働活動の目的は、学校の教育方針に基づき、地域と学校が連携した活動を行い、教育活動の充実と地域づくりをめざすことです。

昨年度からスタートした事業で、今年度で二年目になります。

東野地区地域学校協働活動



具体的には、地域を支える諸団体がそれぞれの得意分野を生かして学校教育を支援することを通して、自らの団体も活性化して、地域全体が元気になることです。

これらの団体が、安全支援、学習支援、活動支援、図書支援などの領域で支援をしていきます。

この活動を中心となつて進めていくのが、推進員です。現在は丸山文憲さんが活躍してみえます。

具体的には、地域を支える諸団体がそれぞれの得意分野を生かして学校教育を支援することを通して、自らの団体も活性化して、地域全体が元気になることです。

クラブ活動支援（郷土研究有志）

・歌舞伎クラブ

歌舞伎保存会の皆さん指導の下もと、10月の歌舞伎発表会に向けて練習がスタートしました。今回は台本の読み合わせです。



・郷土クラブ（史跡散策、郷土料理）

郷土のことについて学びます。今回は、蚕のことについて学んでいます。

また、郷土料理も学びます。今回は朴葉寿司です。（6月1日実施）

・郷土散策クラブ

東野の旧所・名跡を訪ねて歩きます。



交通安全教室（交通安全協会）

交通安全東野支部が東野小学校で交通安全教室のお手伝いをしました。新年度の始まりに合わせて、一年間無事故で登下校できるようにと願いこめて実施しました。恵那警察署からも来ていただき、信号の渡り方や、道路の安全な歩き方など丁寧に教えていただきました。



この交通安全教室が今年度第一回目の東野地区地域学校協働活動になります。

資源回収（東野小PTA）

資源回収の収益金は東野小学校の教育活動に役立てられます。（6月5日実施）

読み聞かせ 本の修理 (ちぢんぶい)

六月一日(水)
読み聞かせをしました。

五月二十四日(火)
本の修理・ペーパーのほつれなどをテープ等で修繕しました。

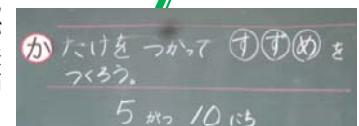
学習支援（推進員、JAひがしの、東雲連合会、東野コミュセン）

・野菜苗植え・五月十一日、一年生十六名が野菜の苗植えに挑戦しました。な

どもろこしきを校舎の前の花壇に植えました。四年生は五年生を見本に、五年生は昨年の経験をもとに体験学習を進めていました。

・田植え・五月十八日、東野小学校四、五年生が田植えを行いました。推進員の丸山さんや東雲会の松浦さん、JAの

丸山さんが講師として参加しました。子どもたちは、講師の丸山文憲さんの丁寧な説明に耳を傾けて、集中して活動に参加していました。



・スヌメガハラ

五月十日、東野小一年生が生活科の授業で、竹細工

保古グランピング竣工式（霧の中での幻想的な竣工式）

十時から保古グラ
ンピングの竣工式
が開催されま
した。

式は、オープニ
ング、市長挨拶、趣旨説明、感
謝状贈呈、来賓祝辞、ドローン
のアトラクション、内覧会と続
きました。

オープニングでは、東野歌舞
伎保存会の皆さんが白波五人男
を披露しました。各人の口上に
は東野に関わることが含まれて
いて、東野のイベントであるこ
とが印象に残りました。

前日からの雨が上がったばかりで、霧の中での上演でした。かすんだ景色の中での歌舞伎姿もいつも一味違つて魅力的でした。

観光地保古

の湖も姿を変え
ていき、時代の流れを感じました。



四月十五日午前
十時から保古グラ
ンピングの竣工式
が開催されま
した。



- ・スタッフの方は若い方が多く、たき火のお手伝いや、料理の準備等において接する機会も多く、話しやすい方でよかったです。

- ・食事はグランピングならではのアウトドア感がありつつも、豪華でおしゃれで美味しくて大変満足です。また、地元の食材が多く使われていて、それも美味しい！

- ・チェックイン後は、お夕食の食材が届くまで近くの湖までお散歩をしました。とても良い思い出になりました。

- ・テントの中までBGMかのように、鳥のさえずりやカエルの鳴き声が聞こえ、自然に包まれて大変リラックスできました。

- ・帰宅後「楽しかった」「また行こうね」と小4女子に繰り返し頼まれています。スタッフの方々のつかず離れずの対応も好感が持てます。今回つれていけなかつた家族を誘つてまた遊びに行きたいと思います。

- ・全体的に、とてもきれいで食事も美味しく、楽しい時間が過ごせました。

オープンしてから約一ヶ月後の利用者の声を紹介します。

利用者の声

スタッフの方は若い方が多く、たき火のお手伝いや、料理の準備等において接する機会が多く、話しやすい方でよかったです。

元の者としてうれしいですね。

花無三句会自選句

（令和四年六月一二十四日）

・堀越しに矢車菊を一握り

市川 芳子

・老鶯の声聞き歩く老翁よ
和菓子屋で菖蒲節句と教えられ

千藤 猛司

東野こども園 六月一日

東野おはなし会ちちんぶいさんによる読み聞かせで、大型スクリーンを使って面白おかしく読んでいただきました。

子ども達は最後まで集中してスクリーンを見ながら、お話を聞いていました。



東野地域安全パトロール（8・9月）

金曜日16:00～17:00

8月

26日 東野開発振興会



9月

2日 東野開発振興会

9日 東野自治連合会（上）

16日 東野自治連合会（下）

30日 東野小学校PTA

見守り、よろしくお願いします。

発足から15年目を迎きました

「飯沼川を通じて郷土愛を育てる会」は、意を同じくする仲間が集まり、2007年6月に発足しました。最初の2年間は伊藤勝通さんが会長を務め、次に、渡辺忠明さんが9年間、現在は伊藤宮夫さんが4年目の会長を務めてみえます。

当初は、年4回の飯沼川の草刈り作業を中心、環境整備をおこなっていましたが、途中から年3回に変更になりました。

時を経るに従い会員数も増え、現在は45名の会員数を数えるようになりました。15周年という節目に、50名という切のよい会員数を目指して下記のような募集記事を載せさせていただきました。ぜひ、趣旨にご賛同いただき会員になつていただければ幸いです。



会員募集



草刈りの様子

「飯沼川を通じて郷土愛を育てる会」は、そんな思いで、東野の中心を流れる川、「飯沼川」を整備しています。東野の宝であるお米も川なくしては収穫することができません。生活用水としても、大切な水です。川を大切にすることにつながります。何より、郷土を愛する心を育てます。

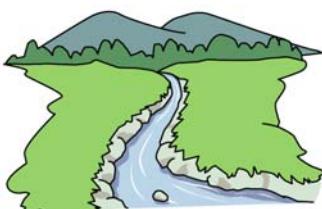
連絡先

伊藤宮夫 一六一一六六〇
松浦明徳 一五一三九六三
千藤久明 一五一三七四

活動の中心は、年三回ほどの河川敷の草刈りです。その他に、ゴルフやバーベキューなどの親睦会を行うこともあります。

今現在男性三十七名、女性八名の計四十五名の会員です。

少子高齢化の波を受けて、年々会員が減っています。会の活性化に向けて、新規会員が待ち望まれます。ぜひご参加ください。



飯沼川を通じて 郷土愛を育てる会

川は、大
地に潤いを
もたらし、
私たちの生
活を豊かに
してくれま
す。



2019/06/09

◇コミセン利用団体◇ 紹介

太極拳こぶし（月3回木曜日、東野コミセンで実施）

いつまでも元気でいられるよう、心身共にリラックスできる体づくりを目指して、日々活動しています。

参加者募集中！お気軽にお声掛けください。

※問い合わせ先/東野コミュニティセンター

TEL26-2555



◇コミセン図書コーナー◇

一般書・児童書だけでなく、雑誌なども置いてあります。貸し出し可能なので、ぜひご活用ください。

閲覧可能雑誌/・オレンジページ

- ・今日の健康・趣味の園芸
- ・今日の料理



発 行

東野コミユーニティセンター 62-61-1555
東野地域自治区運営協議会 62-61-1144

草刈り機 日没からの 大合唱

そこで一句

今は草の需要がほとんどないので草刈り機で刈り扱いするだけです。いくら草刈り機といつてもこの時期の中での作業はとても危険です。今は、朝よりも日が沈んでからの薄暮に草刈りをすることが多いです。日が暮れるとあちこちで草刈り機の音が聞こえ始めます。



この句は、長野県のある山村の石碑に書かれていた句です。暑さを避け、朝のうちに草刈りを済ませたいというお百姓さんの事情を詠んだものです。

昔の草刈りは、刈った草を牛の餌や田畑の肥料に利用しましたので、とても大事な仕事でした。しかし、日中はとても暑くてできませんでした。

一句紹介します。

鎌を研ぎ 日昇る前の ひと仕事

夏の盛りの日中の作業は熱中症の危険もあり避けなければなりません

◇乳幼児学級◇

♡すくすくクラブ♡

6/16 「防災と食育」をテーマにパッククッキングを学びました。

（※講師/東野食改、桐山さん）

災害時でも美味しいものが、ビニール袋さえあれば簡単に食べられる。普段から緊急時に備えることが大事なことを再認識しました。

今回は・ご飯・カレー・サラダチキン

- ・ういろうの4品を作りました。

子供を連れてママさん達

頑張りました(*^-^*)